

いいね！ 別府温泉に行こう — 船旅日和 —

愛媛と大分を結ぶ海の架け橋宇和島運輸フェリー

- 宇和島運輸株式会社 -

愛媛県の八幡浜港～大分県の別府港・臼杵港を結ぶ宇和島運輸フェリー。

今年6月に就航した「れいめい丸」をはじめ「あけぼの丸」「あかつき丸」「おおいた」の4隻のフェリーは、四国と九州を結ぶ“海の国道”で活躍しています。

出島に新設された八幡浜港新フェリーターミナルで「れいめい丸」に乗船し、大分県別府港まで2時間50分の船旅を楽しむことができます。出港から速吸瀬戸はやすいのせと（豊予海峡）までは、佐田岬半島を右舷側に見て、穏やかな海が続きます。

■ 佐田岬半島

瀬戸内海と宇和海を分け、長く突き出した半島は、日本列島で最も細長い半島で、長さは約40km。半島内に大きな川はなく、平地は極めて少ない。この地形の形成には、日本列島の成り立ちと四国山地が関係しています。平地が少ないのは、現在地上に出ている部分が山の尾根だったため、遠浅の瀬戸内海とは異なり、海岸近くでもすぐに水深が深くなるのが特徴。

■ 別府の魅力 温泉湧出量、源泉数ともに日本一を誇る温泉天国

別府湾に沿って南北14km、東西13kmに広がり、街のそこかしこから白い湯けむりが立ちのぼる別府は、世界に10種類ある泉質のうち7種類が湧くという。主な見どころは「べっぷ地獄めぐり」「みょうばん湯の里」「湯けむり展望台」など。

<べっぷ地獄めぐり>

中心地にある鉄輪温泉街かなわは、宇和島運輸フェリーが入港する別府港から約5kmのところであり、とても便利。休暇中は家族と地獄めぐりを楽しみながら、別府温泉を堪能するのもいいだろう。

❖ 龍巻地獄

別府市指定天然記念物の「間欠泉」で、一定の間隔で熱湯と噴気を噴出する。噴出し始めると6分から10分ほど続く。1日の噴出量は600キロリットルに及ぶという。

❖ 血の池地獄

奈良時代の豊後風土記に「赤湯泉」と記載され、日本最古の天然地獄。広さ1300㎡、深さ30m、温度が摂氏78度で、酸化鉄、酸化マグネシウムなどを含んだ赤色の粘土を噴出し、池一面が真っ赤であるため、血の池地獄と呼ばれている。

❖ 坊主地獄

昔、この地は鶴見の里といわれ、ここには延内寺という寺があり、出湯と霊泉の修養の聖地だったが、今からおよそ480年前に大地震が起こり、延内寺の床下から突然大爆発して、住職と寺院は、一瞬のうちに噴き上げられ、姿を消した。その跡で絶え間なく噴き上げる熱泥が、坊主頭のように、坊主地獄と呼ばれるようになった。